9－1　小学校　中学年総合的な学習の時間　指導事例
「笑顔と笑顔が出会う私たちのまち」（福祉）

【単元目標】
自分たちの町を見つめ直し、そこに住む人たちがより幸せになるために自分ができることを考え、実践する中で、協同的に探究し、問題をよりよく解決することができるようにする。

【目指す子どもの姿】
まちに町に住む人たちのために、自分ができることを多角的に考え、意思決定し、実践に移している

1　本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学　習　活　動（全 32 時間）	ポイントになる学びのプロセス
まちに住むいろいろな人を思い出してみよう② ・日頃の話題や２年生の頃行った、まち探検の話題から、地域で生活をする様々な人のことを想起する。 ・暮らしやすさという視点から「自分たちのまちのよさ」「自分たちのまちのもっとこうなったらいいと思うところ」の考えを出し合う。 **暮らしやすさを考えながら、まちを散策してみよう④** ・自分たちが出した予想を意識しながら、「暮らしやすさ」という視点で自分たちのまちを実際に散策する。 **住民の「幸せ」って何だろう？④** ・まちの散策を振り返り、実際によかったところ、課題であると感じたところをまとめる。 ・住民の「幸せ」とは何か、どうなることが住民にとっての「幸せ」につながるのかということを考える。 ・自分たちの力で笑顔を増やすことができないか考える。 **プロジェクトを実行しよう⑳** ・自分たちが考えたプロジェクトである「笑顔大作戦」の計画を立てる。 ・「笑顔大作戦」の準備をする。 ・実践し、まちの人の反応を確かめる。 ・実践から得た反省をもとに、よりよいプロジェクトになるように計画を立て直す。 ・立て直した計画を実践に移す。 **このまちで生きていく私たち②** ・これまでの学習を振り返り、これからもこのまちで生きていく自分たちが何をこれからしなければならないのかを考える。	**多角的に考える** **ポイント1** **主体的に行動する** **ポイント2**

2　政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

単元を貫く拠り所（テーマ）を考え、合意形成して、共有しましょう。

総合的な学習の時間では、指導事例のように１単元の時間が長くなることが想定されます。その場合大切にしたいことは、**単元を貫くテーマを合意形成し、単元の要所でここに立ち戻る**ことです。そしてこの拠り所にもとづいて様々なことを決定していく作業が必要になります。拠り所を作る際の要素には次のようなものが考えられます。

Ａ：この単元でめざすゴール・児童の思いや願い
Ｂ：総合的な学習の時間における学び方
Ｃ：活動可能な時間・場所等のハード面の条件

Ａは、**何のためにこの活動をしていくのか（しているのか）**という点であり、特に重要なものです。本単元で言えば、「まちで暮らす人の笑顔を増やしていく」ということですが、「笑顔」はどのようにしたら生まれるのか、という点について掘り下げていくことも必要かつ有意義でしょう。またＢは、総合的な学習の時間ではどのように学んでいくかという点であり、「みんなが参加して力を合わせて」「あきらめず繰り返して」「地域に発信していく」など、総合的な学習の時間で大切にする**探究と協同を子どもの言葉で表現**されることが大切です。Ｃは、あくまでも学校教育の中で行うということから、時間や場所が限定されます。合意形成する際にはこの**ハード面の条件も事前に提示**することが求められます。これらの要素を含んだテーマを設定することで、個人での意思決定、集団での合意形成が実を伴って行われることとなります。

ポイント2

児童がくり返し取り組めるものを取り上げ、十分な試行錯誤ができる時間を保障しましょう。

一つの問題を解決するにあたり、**長い時間にわたって、仲間とくり返し事に当たる**ことが求められます。そのことを想定し、小学校段階で一つの問題に試行錯誤しながら、じっくりと取り組む経験をしておくことは政治的教養を育むうえで大切です。

探究と協同がキーワードとなる総合的な学習の時間は、政治的な教養を育む教育とも親和性が高いと言えます。また学習指導要領に定められる目標にもとづいて、各学校で目標と内容を決定することができ、**目の前の子どもの実態から単元を作る**ことができるという特長があります。

本単元の後半は自分（たち）が意思決定したことを実践していく学習活動になりますが、この際**試行錯誤できる十分な時間を保障する**ことが大切です。いくらよい取組でも、時間がなくて一回しか実践（体験）できないということであれば、本単元で願う児童の資質・能力は育成されません。児童が何に取り組むかを決める際には、それが**日常的に繰り返しできることかどうか**を選択する視点として提示することが必要でしょう。

また、実践にあたっては実践と実践の間が重要になります。じっくりと**振り返り、改善点は何かを吟味し、次の実践に生かしていくというサイクル**を大切にしていきましょう。